

## 「縁と出逢い」

今朝、朝食に手作りのパンをいただいてきました。私が作ったパンではなく、妻が作ったものでもありません。妻の職場で、妻と向い合せに座っていらっしゃる男性（Aさん）の奥様が作られたパンです。Aさんは60歳を越えられ、小浜にお住まいになっています。昨年4月から妻はAさんと職場を御一緒させていただいています。なぜ、Aさんが妻の職場に来られたのか、伺ったところによると諫早に住んでいらっしゃる妹さんの所に遊びに行かれ、たまたま諫早の町を歩いていらっしゃると、昔職場を共にされた方（Bさん）とばったり出くわされたそうです。Bさんは私の妻と同じ職場にいらっしゃる方です。そのBさんがたまたま出くわしたAさんに「今の職場で人を探しているので手伝ってもらえないか」と頼まれたそうです。Aさんは快諾され、私の妻の目の前の席に座られることになりました。妻はAさんとお話をさせていただく中で、Aさんの奥様が作られたパンをよくいただくようになりました。私はそのパンを今朝いただいてきたということです。

今話を聞いて不思議だと思いませんか。Aさん、Aさんの奥様、Aさんの妹さん、Bさん、私の妻、その誰か一人でも欠けると、今朝、私が手作りパンをいただくことはなかったということです。そして、その中で私が知っているのは私の妻だけで、あの方々はお会いしたことがありませんので、道ですれ違っても分かりません。知っている、知らないにかかわらず、実は私たちはこのようなご縁の中で生かされているのです。「おかげさまで」という言葉があります。「おかげ様」は特定の誰かを指しているのではなく、私にとって妻以外の皆様が「おかげ様」ということになります。私たちはこのように「おかげ様」に生かされているのです。皆さんが着ている制服は誰が作ったのでしょうか。皆さんの手元に制服が届くまでに何百人、何千人の方々が関わっているのかは分かりませんが、「おかげさまで」皆さんは制服を着ることができているのです。学生カバンも鉛筆も教科書も同じです。「おかげさまで」勉強できるし、「おかげさまで」部活動もできるのです。このように私たちはご縁の中で生かされ、「おかげさまで」生かされていることを心に留めて生きていくと、自ずと謙虚になり、感謝の念も湧いてくるものです。

ご縁が深くなると私たちは実際に出逢うことになります。では出逢う確率はどれくらいあるのでしょうか。世界の人口は約76億人です。口加高校の生徒は、午後から入学してくる新入生を入れると239人です。ということは3000万人に1人の確率で皆さんは出逢っています。しかし、私は「出逢いに偶然はない。全て必然である」と思っています。例えば、歴史をみても、坂本龍馬が勝海舟と出逢わなければ明治維新はなかったのではないかと、また大河ドラマの主人公である西郷隆盛が薩摩藩主である島津斉彬と出逢わなければ、西郷が歴史の表舞台で活躍することはなかったのではないかと、と思いますが、この両者が出逢わないということはなく、出逢うようになっているのです。人は出逢うべき人と、出逢うべき時に、出逢うべき場所で出逢うようになっていると私は思っています。そう思っていると出逢うべき人々が愛おしくなるんです。皆さんの横の人を見てください、後ろの人を見てください。皆、出逢うべくして出逢った人です。皆愛おしいと思いません

か。そう思って生きてると、出逢った人をいじめたり、仲間外しにしたり、SNS を使って誹謗中傷したりすることはあり得ないはず。自分とは違うからいじめるのでしょうか。自分以外は皆他人です。違うのは当たり前。違うからこそ、人を尊敬できるし、好きになれるし、あこがれる。自分の足らざるを人が埋めてくれるから社会は円滑に回っているのです。

また、出逢いは人だけではなく、本や言葉との出逢いもあります。かつて、こんな女子高生がいました。その女の子は、授業中指名されて発表するとき、緊張して上ずってしまう自分の声が大嫌いでした。ある日の校内放送で、放送部員の「今日も皆さん、がんばりましょう！」という元気で爽やかな声を聞いた時、その女子高生は「自分もこうなりたい」と思ったんです。そして放送部の門を叩き、毎日毎日努力を重ねました。そして迎えた高校3年生の夏、NHK 全国高校生放送コンテスト。アナウンス部門で見事に優勝したのです。緊張で声が上がっていた女の子が、全国数千人の放送部員の頂点に立った瞬間でした。そしてその実績により、翌春の選抜高校野球大会の開会式で、司会進行役を務めることになりました。もし、その女子高生が「今日も皆さん、がんばりましょう！」という声に出逢った時、「自分には無理」とか「うらやましいけど、自分にはできない」と思い、放送部に入部するという一歩を踏み出さなかったならば、全く違う人生を歩んでいたことでしょう。

「小人は縁に気付かず 中人は縁を活かせず 大人は袖触れ合う縁も縁となす」と言います。私たちはご縁の中に生き、おかげ様に生かされ、そして出逢いをいただきながら生きているのです。

皆さんは、中島みゆきさんの「糸」という歌を知っていますか。こんな歌です。

**なぜめぐり逢うのかを 私たちは なにも知らない  
いつめぐり逢うのかを 私たちは いつも知らない  
どこにいたの？ 生きてきたの？  
遠い空の下、二つの物語  
縦の糸はあなた 横の糸は私  
織りなす布は いつか誰かを  
暖めうるかもしれない**

(拍手)では、拍手に応えて、

**縦の糸は「生徒のみんな」です 横の糸は「先生方」です  
逢うべき糸に出逢えることを  
人は仕合わせと呼びます**

では、出逢いに感謝して、素晴らしい1年になりますように。これが1学期始業式にあたり、私からの訓辞です。